

藤原清衡の四男清綱が志波郡比爪(現紫波町赤石)に本拠を構え、居住地の地名を名字とし「樋爪氏」を称した。奥六郡に同族を分置しなかった清衡にしては特別の配置である。

—岩手県市町村地域史シリーズ24「紫波町の歴史」河村迪雄著—

## 《《《 4～5月行事予定のお知らせ 》》》

<p>4月14日 (日曜日)</p>	<p>平成25年度特別講演会</p>	<p>午後2時から4時まで 「治承・寿永の内乱～奥州合戦」 講師 平井和夫氏(赤石地区ひづめ館懇話会副会長) 参加料 無料  ※1 講演会終了後、懇親会(会費2,000円)を行います。 ※2 午後1時から平成25年度定期総会を開催しますので、会員は参加してください。</p>
<p>5月15日 (水曜日)</p>	<p>第42回月例懇話会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：高橋敬明他 テーマ：未定</p>

## —?—?—?—?—?— 樋爪氏 / 樋爪館 —?—?—?—?—?—

## Part 11

(9) 忠臣 佐藤兄弟(前号につづく)

宇都宮市の、隣の上三川町にある二荒山(ふたあらやま)神社の社伝や吾妻鏡の記述によると、頼朝は同神社を参拝し勝利を祈願して奥州に出陣し、その後、鎌倉に戻る途中、流罪に処した五郎を預けたといひます。伝承では、五郎は故郷恋しさの余り二荒山神社を抜け出して追手に討たれ、その場所は樋爪坂と名付けられました。

また、鎌倉に預けられていた五郎の長男経衡(つねひら)が、父の他界後、二荒山神社の社務職を継いだということです。五郎が大病を患った際に、経衡が相模から馬で駆けつけ、到着後に疲れて転んだことから転労町と呼ばれ、それが誤読され「博労(はくろう)町になったと伝えられています。

上三川町の上郷地区はほとんどが浜野姓で

ある浜野家の墓石に「浜野元祖」「樋爪五良季衡末流濱野弾正」と書かれているそうです。河野守弘が嘉永3(1850)年に完成させた「下野国誌」に「宇都宮家の家臣に濱野弾正武季あり、五郎末孫という。後孫今も三軒在家村に・・・」(三軒在家村は上郷地区のこと)とあります。

また、別のケースですが、俊衡の孫である家衡は三重に流されました。家衡は、後に松ヶ野彦六と名を変え、松ヶ野姓の祖となったといわれ、子孫は薩摩藩の島津氏に仕えたことが分かっています。最近も、前に述べた藤原恒久氏のもとに、家衡の末裔(まつえい)である松ヶ野姓の方が立ち寄られました。800年という時を超えて先祖の地に臨み、感慨ひとしおだったとのこと。

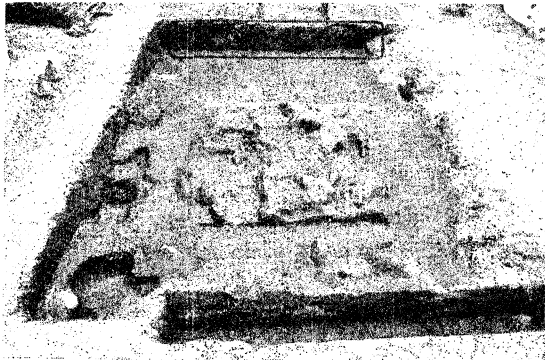
<「紫波の歴史は面白い」2008紫波町平泉関連史跡連携協議会発行[平泉関連編]から抜粋>

これまで、赤石地区ひづめ館懇話会の月報『ひづめだて』の各班回覧をお願いし、皆様にご覧いただくことができ誠にありがとうございました。諸般の事情により本号をもって回覧は終わりとすることになりました。今後は“赤石公民館”やオガールプラザ内の“ゆいっとサロン”に配付用として置いておきます。関心のある方は、そちらで各自で受け取ることができるようになります。なを、発行は引き続き毎月25日頃になる予定です。

＝ 比爪館跡 第30次調査報告 ＝

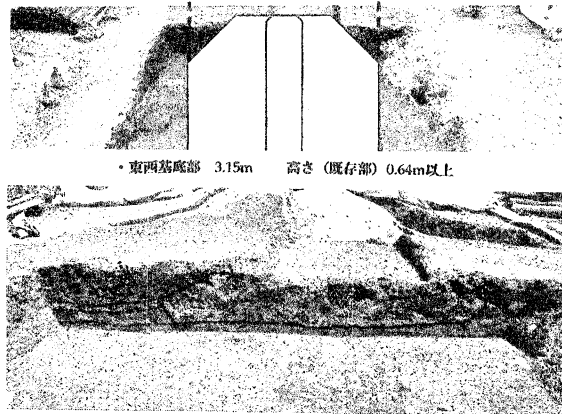
- ◎遺跡の概要 ○立地
- ・本遺跡は北上川の西側にある。
  - ・JR東北線日詰駅の南東約500mに位置する。
  - ・中位花巻段丘上に立地する。
- 周辺の遺跡
- ・下川原 I・II遺跡
  - ・南日詰小路口 I・II遺跡・・・その他

・土塁状遺構 (SX-017)



土塁状遺構 全景

16



土塁状遺構の堆積状況

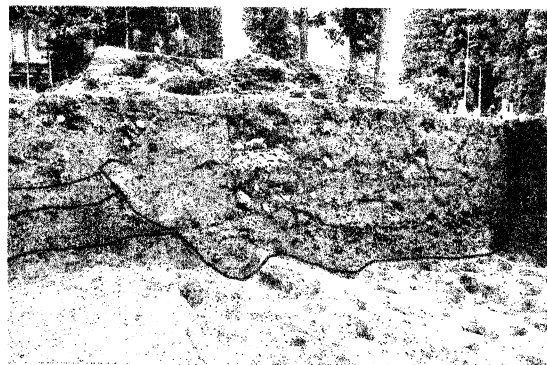
17

・池跡? (SX-018)



池跡? 全景

20



池跡? 堆積状況

21

ま と め

- ・今回の調査で土塁状マウンド1基・土塁状遺構1基・池跡? 1ヶ所・堅穴住居跡1棟穴26口を検出した。
- ・土塁状マウンド1基・土塁状遺構1基・池跡?は、本遺跡では初めての発見です。
- ・今後、南側と西側の発見調査が行われることで、どのような性格を持つ遺構なのか明らかになるであろう。 (平成24年度紫波町埋蔵文化財発掘調査報告会説明資料より一部抜粋)

赤石地区ひづめ館懇話会  
会員募集中  
会費 年額 1,000円

主旨に賛同する方、どなたでも歓迎  
申込は赤石公民館内の事務局まで。

019-676-3999

ボランティアガイド

桶爪館遺跡の道案内人

JR日詰駅前 宮澤賢治の歌碑前 スタート  
ご相談に応じます。ご近所お友達誘い合っ  
て、事前にお問い合わせください。

090-3125-3776(高橋)